



利根中央病院だより

きらめき



第59号
2021年 春号

発行責任者 利根中央病院 病院長
編集責任者 利根中央病院 事務長
〒378-0012 群馬県沼田市沼須町910-1
TEL：0278-22-4321（代表）
FAX：0278-22-4393
URL：http://www.tonehoken.or.jp/

病院長就任のごあいさつ

2021年4月1日付けで利根中央病院病院長を拝命いたしました、関原正夫と申します。昨年から吹き荒れている新型コロナウイルス感染症の猛威も冷めやらぬ中、ここに新年度を迎えました。感染に配慮しながら、発熱外来の設置・院内PCR検査・疑似症例の専用病床を確保して、通常診療が遅滞しないように体制を整えています。

多くの診療科が群馬大学医学部の関連病院として教育病院や教育関連病院に指定されており、地域の皆様に質の高い医療を提供する様に心がけています。特に救急医療に関しては、利根沼田二次医療圏の救急車搬送の50%以上を受け入れています。また小児救急輪番病院とともに周産期に対応できる地域で唯一の医療機関として重責を担っています。



病院長 せきはら 関原 まさお 正夫

教育に関しては基幹型臨床研修病院として近年定員を満たす初期研修医を受け入れており、当院の初期研修教育が高く評価されています。また医師のみならず、看護師・薬剤師等、多職種の学生への臨床実習も行われています。

当院は災害拠点病院であり過去に全国の様々な災害に対応してきました。災害発生時には病院全体が、通常時モードから災害時モードにスイッチを切り替えられるように訓練を実施しております。

幅広くかつ安心できる医療を提供できるように職員一同努めて参りますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

病院長退任のごあいさつ

この度、2021年3月31日をもって利根中央病院・病院長を退任させていただくことになりました。2016年4月に病院長に就任してから5年間ですが、大変お世話になりました。この間、組合員の皆様、沼田利根医師会の先生方、行政の諸先生方には病院の諸行事にご参加いただいたり、ご支援をいただいたりしました。また、医療体制や経営的なことまでご指導とご鞭撻をいただきました。私たちがこの地域で医療を行える意義と感謝を常に与えてく



名誉院長 おおつか 大塚 たかゆき 隆幸

ださいました。ことに2020年4月の新型コロナウイルス感染症のことは当院の真価を問われる事態になりましたが、皆様のお陰を持ちまして、何とか切り抜けることができました。

在任中は大変有難うございました。今後とも関原新院長と利根中央病院をよろしくお願い申し上げます。皆様の益々の御健勝を衷心よりお祈り申し上げます。

新任医師あいさつ

循環器内科医員 **滝沢 大樹**

専攻医として、利根中央病院で循環器医を目指すことになりました。出身は群馬県の嬭恋村です。まだまだ至らない点ばかりですが、地域の循環器診療に貢献できるように日々努力してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



総合診療科医長 **小林 喜郎**

救急と集中治療をやってきました。渋川出身ですが、この地域で共に生きる医学に魅力を感じ、今年度よりお世話になる事になりました。医学、それ以外にも色々な方から色々な事を教わりながら日々過ごさせていければと思います。よろしくお願いいたします。



総合診療科医長 **宇敷 萌**

生まれも育ちも沼田です。北毛地域で長く診療してきました。家庭医として、外来や訪問診療、病棟などに関わっていきたいと思います。大震災の年に医師となりはや10年目です。至らないことも多いと思いますが、新たな気持ちで学んでいきたいと思います。



総合診療科医員 **岩出 良介**

大学を高知で初期研修を水戸でそれぞれ過ごし、4月より総合診療専門医研修の専攻医として利根中央病院に赴任いたしました。地域の医療に少しでも貢献できるよう頑張ります。ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。



総合診療科医員 **鹿野奈津美**

初期研修から引き続きお世話になります。夏に出産を控えておりますので、産休までの短い期間になりますが、総合診療科で診療させていただくことになりました。どうぞ、よろしくお願いいたします。



小児科医員 **須田 峻平**

今年度より小児科に勤務させていただくことになりました。利根沼田の小児医療に少しでも貢献できるように尽力いたします。よろしくお願いいたします。



整形外科医員 **有澤 信亮**

今年度より整形外科にて勤務させていただきます。群馬県前橋市の出身で、水泳を約20年やっていました。運動器疾患の治療のみならず、患者様のQOL・ADL向上のためにお役に立てれば幸いです。よろしくお願いいたします。



整形外科医員 **窪塚 貴哉**

今年度より勤務させていただきます。出身は桐生で大学入学までは桐生で過ごしていました。残念ながら利根沼田地域はこれまで縁がなく、今回の異動が初めてなので、新鮮な気持ちで参りました。少しでも皆様の診療のお力になればと考えておりますので、気軽に声をおかけください。よろしくお願いいたします。



整形外科医員 **小暮 悠介**

今年度、整形外科の一員として働かせていただきます。生まれは太田市で、前橋高校、秋田大学、秋田での初期研修を経て、群大整形に入局いたしました。色々ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、精一杯がんばりますのでよろしくお願いいたします。



外科部長 **小林 克巳**

今年度よりお世話になります。沼田病院からの異動なので、利根沼田の地域のことはある程度わかっていますが、今まで以上に地域医療に貢献できるよう頑張っていきたいと思います。よろしくお願いいたします。



外科医長 **熊倉 裕二**

消化器外科医としての手術治療だけでなく、内視鏡治療も研鑽を積んで参りました。また、PICCやPTCDなどエコーガイド下の処置も得意としています。幅広い診療に対応できると思います。よろしくお願いいたします。



放射線科科長 **山田 宏明**

画像検査の進歩に伴い、読影しなくてはならない画像枚数や検査の種類が増加しています。読影による先生方の仕事量増加もあろうかと思っております。画像診断を専門に行う医師として先生方の日々の診療のお手伝いが少しでも出来たらと思っております。お気軽に御相談ください。



研修医の紹介とあいさつ

研修プログラム責任者・副院長 ^{よしみ} ^{せいし} 吉見 誠至

新年度を迎え、当院に新たに初期研修医6名が加わりました。昨年度は臨床研修にも新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けましたが、発熱外来など当院がこの地域で期待される役割を果たしつつ、1年を通じてみれば臨床研修もほぼ例年通り行うことができました。



初期研修医には研修期間中に医師としてのしっかりとした基礎をつくって、地域の医療にも貢献してくれることを期待しています。視野を広くもち、それぞれの目標に向かって頑張ってもらいたいと思います。

当院には様々な背景をもった多様な患者さんが来られます。プライマリーケアから専門的な治療まで初期研修を受けるにはもってこいの医療機関と考えております。コロナ禍の中、工夫をしつつ、よりよい研修ができるように努力してまいりたいと思いますので、今後ともよろしくお願いいたします。

初期研修医 ^{いそがい} ^{こうた} 磯貝 康太

今年度より研修医としてお世話になります。高崎市の出身です。この地域で刺激的な仲間と先生方に囲まれて研修できることを嬉しく思います。医師として成長するだけでなく、地域の皆様のお力になれるよう邁進してまいります。よろしくお願いいたします。



初期研修医 ^{おだ} ^{ひろき} 小田 洋樹

今年度より研修医としてお世話になります。大学では夏は野球、冬はアルペンスキーの二刀流で部活動に励んでいました。スポーツを通して培った体力を武器に利根沼田地域の医療に微力ながら貢献できましたら幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。



初期研修医 ^{いつい} ^{ともや} 伍井 友哉

今年度より研修医としてお世話になります。生まれは埼玉県ですが、山口大学で学びました。大学では山岳部に所属し、登山を楽しみました。まだまだ未熟な身ですが、日々学び、地域の皆様の健康維持に貢献したいと思っています。よろしくお願いいたします。



初期研修医 ^{しらき} ^{ゆきな} 白木柚希奈

はじめまして。今年度より研修医としてお世話になります。出身は東京ですが、南魚沼にある親戚の家によく遊びに行っていました。未熟な身ではありますが、この地で皆様のご指導の下、精進してまいります。よろしくお願いいたします。



初期研修医 ^{おざわ} ^{としき} 小澤 俊貴

今年度より研修医としてお世話になります。山梨県出身で、薬剤師として勤務した後、群馬大学に編入学しました。この利根沼田地域で多くのことを学ばせていただき、皆様のお役に立てるように精進したいと思っています。よろしくお願いいたします。



初期研修医 ^{たむらけんたろう} 田村健太郎

父の実家が沼田市内にあり、幼少期よりよく訪れてきたこの地域で、医師としてのスタートラインに立てたことを大変嬉しく思っています。まだまだ未熟で、ご迷惑をお掛けすることも多いと思いますが、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



第24回日本遠隔医療学会学術大会、 第25回国際遠隔医療学会開催報告

2021年2月11日(木)～25日(木)の14日間、第24回日本遠隔医療学会学術大会ならびに第25回国際遠隔医療学会をWEB開催いたしました。

大会は国際大会(英語)と国内大会(日本語)の2部構成で、一般演題数は国際大会33演題で、国内大会109演題を採用し、大会企画シンポジウムは国際7セッション、国内4セッションで合計51名のシンポジストに登壇してもらいました。参加者も過去最高となり、世界25か国から441名に参加いただきました。

COVID-19到来で遠隔医療は大きく前進しましたが、世界にはまだ遠隔医療を活用できない同胞

診療部長・外科科長 ^{こり} ^{たかゆき} 郡 隆之



が多くいます。今回、COVID-19第1・2波で経験した遠隔医療の活用方法を本大会で世界の同胞にシェアすることができました。人類の英知を結集し、時空を超えた絆でCOVID-19パンデミックを乗り越えましょう！

利根中央病院と医師の自宅を結ぶビデオ通話



海外(バングラデシュ)への遠隔医療支援

循環器内科の今後の展望

～心臓リハビリテーションと地域連携を目指す取り組み～

循環器内科科長

こんどう
近藤

まこと
誠



心疾患は死亡原因で悪性新生物に次ぐ第2位が続き、その数は増加傾向にあるため、2019年12月に「脳卒中、心臓病その他の循環器病に係る対策に関する基本法」が施行され、国による対策が開始されました。狭心症や心筋梗塞、心不全、弁膜症などの心疾患は、生活習慣病と関連し、加齢とともに増加します。そして発症後は、生活機能の低下から要介護状態へと進行することもあります。しかしながら生活習慣の改善や適切な治療により予防や進行抑制が可能であるという側面もあるため、発症後においても再発予防や重症化予防を繰り返し行う必要があると言われています。

当院循環器内科では、当地域での心疾患診療強化のため、2019年から3年連続で専攻医を受け入れ、循環器専門医の育成に取り組んでいます。また心疾患の治療として心臓リハビリテーションチームによ

る包括的な介入を行なっています。病棟看護師は心不全療養指導士を取得し、再発や重症化予防のための患者教育に取り組み、理学療法士は心臓リハビリテーション指導士を取得し、運動療法による治療介入を行なっています。その他、退院後の生活改善のためソーシャルワーカーがケアマネージャーと連携し生活環境の調整を行ない、服薬については薬剤師、減塩食などの食事療法については管理栄養士が介入しています。

今後は、地域の病院や診療所、介護福祉施設、ケアマネージャーなどと連携することを目指し、心疾患の予防から、早期発見、治療、治療後の再発、悪化予防を行ない、最終的には緩和医療や地域での看取りまでを目標とした、地域全体での包括的な循環器診療を行なうことを目指しています。



心臓リハビリテーションチーム